

独 標

西東京市立ひばりが丘中学校

第1学年

第13号

令和5年6月12日発行

運動会の作文その2

<敬称略>

「運動会を終えて」

1年B組

「やりきったー。」「楽しかったー。」私は運動会を終えてそんな気持ちになりました。

5月から始まったリレーといかだ流しの練習でした。いかだ流しの練習、最初は「こんなことできるのかな?」と、いかだ流しの動画を見て思いました。練習し始めのことは、背中の高さがバラバラだったり、肩と肩の間隔が広がったりとなかなかうまくいきませんでした。しかし、練習を行っていくうちに「船頭さんを落とさないようにしましょう。」や「背中の高さとか、肩の間隔を狭めて。」と声かけをみんなですることができるようになりました。結果は最下位でも、最後までみんなとやり切れたことがうれしかったです。

リレーは、練習を始めたころから気合が入っていました。ペア同士でのバトンパスや実践練習。走っていなくても、その瞬間を走っているクラスメイトに「がんばれ!」や「あと少し。」「ラスト!」など、声をかけ全員で協力し、「頂戦」できたと思います。

中学校に入って、初めての大きな行事でした。運動会をとおして、仲間の大切さ、協力することの大切さ、そして全力でやることの大切さを学びました。この経験を基にして、クラスでの話し合いなどの活動や合唱コンクール、球技大会にこれから活かしていこうと思います。

「運動会を終えて」

1年B組

僕は、運動会を終えて、「最高の運動会になったな。」と思った。なぜなら、みんな全力を出して頑張っていたからだ。

まず、いかだ流しでは、女子が今まで以上に速くなり、男子に竿を渡すまでの時間が縮まった。男子は、船頭の七森君が怪我をして、前田君が急遽、船頭をやることになったが、土台の「落とさないぞ。」と思う気持ちや前田君の「頑張るぞ。」という気持ちがあり、最下位だったけど、百パーセント以上出し切ることができたと思った。

全員リレーでは、最初、バトンミスをしたり、テイクオーバーゾーンを越えてしまったり、ミスがたくさんあった。けれど、授業中に話し合い、実際にバトンパスの練習をすると、ミスが少なく、バトンパスもスムーズになり、タイムを縮めることができた。何より、体育行事委員の福井さんが、クラスの全員をAとBで振り分け、Aの人は長い距離を走り、Bの人は短い距離を走るということを決めてくれたおかげで、さらにタイムを縮めることができた。本番の結果は、十分一秒で一位だった。今までの練習してきたかいがあったと思えた。

運動会を終えて、僕は仲間の大切さを感じた。リレーの案を考えてくれた人、急遽いかだ流しの船頭をやってくれた人など、たくさんの人が協力して、最高の運動会を創り上げたんだと思った。次の運動会も全力で楽しみたい。

